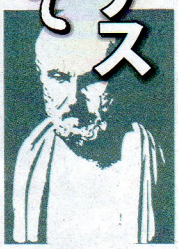
肉の安全・安心は
北陸ミートから！
HACCPシステム対応 北陸ミート株式会社
本社・工場／富山市金屋2718番13
☎(076)443-7272㈹

富山

ヒポクラテスを超えて



>10<

終末期医療法制化の是非

「もっとみんなで考えて」

◆「僕の話を聞いてください」

「どうぞよろしくお願いします」。車椅子に座った高岡市の中島基樹さん(32)の指先がかすかに動くのを、母依子さん(63)は手のひらで感じ取った。人さし指でつづる中島さんのメッセージ。あいさつはこう続いた。

「尊厳死について、とても話がしたかったので、うれしいです。僕の話を聞いてください」

中島さんは、管を通して体内に栄養を補給している。依子さんにご飯や納豆を混ぜ合わせたミキサー食を管に入れてもらいながら、メッセージを続けた。「僕は尊厳死は嫌いです。僕のような人でもみんなと一緒にいろいろなことができると訴えたいです。良いことができるのに何もしないで終わりにするのは嫌です。もっとみんなに考えてほしいです」

◆11年の時を経て

北海道大2年生だった中島さんは2002年、サッカーサークルの練習前、突然の心臓発作で倒れた。周りの人たちの通報ですぐに病院に運ばれたが、脳に障害を受け、自力で動いたり食べたりできない遷延性意識障害を負った。

13年1月6日。国学院大学で障害児教育を研究している柴田保之教授が特殊な器具を携えて、中島さんを訪れた。機械が1文字ずつ読み上げる50音に反応した中島さんの筋肉の動きを特殊なスイッチで受け止め、入力していくと中島さんの〝言葉〟が組み立てられた。依子さんのメモが残っている。

「どうしてわかるのですか。ちいさいちからでつたわるのがうそみたいですがうれしいです。かあさんこばなれさせずにごめんなさい」

左手の人さし指で意思を伝える中島基樹さん（左）と母依子さん＝高岡市内で

意思表示できる能力について、医師からは「絶対回復しない」と言われ続けてきた。11年の時を経て〝会話〟が復活した瞬間だった。

◆尽くされていない議論

今では、依子さんの手のひらに伝わる人さし指の動きだけで中島さんの〝言葉〟が分かる。

「少しでも意思疎通ができる人は良いことをするべきだと思います」。そんな信念に基づいて中島さんは昨年、介護やリハビリの充実を厚生労働省に訴える活動もした。32歳という若さも強みだ。

終末期医療の法制化を求める意見は、治療の目的が延命だけになってしまった時、〝最期の生き方〟について、選択の自由を求める声とも言える。

若さを武器に、自らの経験を語って積極的に社会貢献を続ける中島さん。終末期という言葉が想定する状況とは大きく異なる。それでも、法律ができると、社会的弱者に死を迫る無言の圧力が生まれるのではないか――。日本だけではなく、同様の問題を抱える海外でも出されている懸念だ。それは中島さんの「みんなで考えてほしい」という訴えにつながる。

依子さんも法制化には慎重な姿勢だ。「みなさんキチッと分かっておられるのかっていうのはすごく思いますね。まだまだ法制化をする状態では絶対にないと思うから、やっぱり危ないという思いの方が強いです」

＝つづく